

「ふくしま『未来の教室』授業充実事業」2年目に向けて

6月27日に、「ふくしま『未来の教室』授業充実事業」の第1回地区別研究協議会を御蔵入交流館で行いました。この事業の一つには、「年2回の地区別研究協議会の開催」があります。昨年度は2回ともオンラインでの研修会でしたが、今回は初めて参集型で開催し、義務教育課指導主事による「行政説明」や、域内の実践協力校4校の実践発表を行いました。

以下の表は、実践協力校4校の昨年度の成果と課題、今年度の取組をまとめたものです。

実践協力校	ふくしま『未来の教室』授業充実事業		次世代のためのメディアリテラシー育成事業	
	荒海小学校	只見中学校	只見小学校	檜枝岐中学校
R3 成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ICTを活用した授業実践の継続した積み重ね ○タブレット端末へのポジティブな意識 ○情報の蓄積を生かした学びの充実（振り返り、個の考えの共有等） ○「情報活用能力」の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ○日常的なタブレット端末の活用 ○実験結果のまとめやレポートの作成時のタブレット端末の使用 ○AIドリルの取組の継続 ○自己の学力に対応したAIドリルの効果的な活用 	<ul style="list-style-type: none"> ◇アンケートの実施（保護者・児童を対象） ①情報（メディア）の活用について→利用時間のずれ、土日の使用時間が長くなる傾向 ②ICT機器の利活用について→動画サイト、通信ゲーム、ネットショッピング等、様々な活用 ③トラブルや不安感について→約束事が守れない、長時間の使用、悪口・仲間外れ等の困り感 	<ul style="list-style-type: none"> ○一人一台端末を使用した遠隔授業の実施 ○タブレット端末の積極的な活用
R3 課題	<ul style="list-style-type: none"> ●協働的な学びを充実するためのICT活用 ●AIドリルの持続的・効果的な活用 ●「荒海小情報活用能力体系表」の見直しと改善 ●「情報モラル教育」の視点 	<ul style="list-style-type: none"> ●各教科における「資質・能力」+「情報活用能力」の育成 		<ul style="list-style-type: none"> ●SNS利用に関連したトラブル ●スマートフォン等の長時間の使用
R4 取組	<ul style="list-style-type: none"> ◇ICTを効果的に活用する授業の構想 ◇考えを広め深める協働的な学びの充実 ◇国語科「情報」の単元における重点的学習 ◇AIドリルを活用した個々の児童の習熟度に応じた学習 ◇自校の「情報活用能力の体系表」の見直しと活用 ◇情報モラル教育の実施 ◇ICT活用への理解を深める教職員研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ◇県内の実践協力校が昨年度作成したICT活用シートを基にした授業実践 ◇スプレッドシート活用の実技研修 ◇中村二中との交流 ◇ICTを効果的に活用する場面の校内授業研究会 	<ul style="list-style-type: none"> ◇テーマを決めて2回の授業研究を実施 ①「正しく、安全に、便利に情報を活用するために」 ②「自分事として捉えられるように」 ◇情報モラル講座の実施 ◇教職員間での自主研修会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ◇インターネット依存度テストの実施 ◇ネット利用診断サービスの実施 ◇情報モラル教育講演会の実施 ◇遠隔授業の実施（学期に1回程度）



実践協力校の発表の様子

熱心に協議をされる先生方

午後は、昨年度に引き続き、東北学院大学の稲垣忠教授、香里ヌヴェール学院小学校の樋口万太郎教諭兼研究員に講演（オンライン録画）をいただきました。

稲垣教授からは、ICT を授業場面だけではなく、持ち帰りも含めた日常使いにしていけることがやはり大切であること、「日常・学び・授業のDX化」を進めていくことの重要性をお話いただきました。また、その中で文科省の「StuDX Style」、仙台市の情報活用能力体系表、他県の取組などを紹介していただきました。

樋口先生からは「子供が表現したくなる ICT 活用について」と題し、講話をいただきました。表現したくなるためには、教師の発問や単元構成の工夫などの「しかけ」が必要であることを具体例を通してお話いただきました。ICT の活用のみでなく、普段の授業づくりでも生かせる視点での講話はたいへん参考になりました。

続々事例追加！いろいろな教科で・日常でのDX事例を調べてみよう

① やったことがある／興味をもった事例の番号（例：「2-①」）をメモします。
② 近くの人と紹介しあってみましょう

日常的・汎用的に活用するイメージ

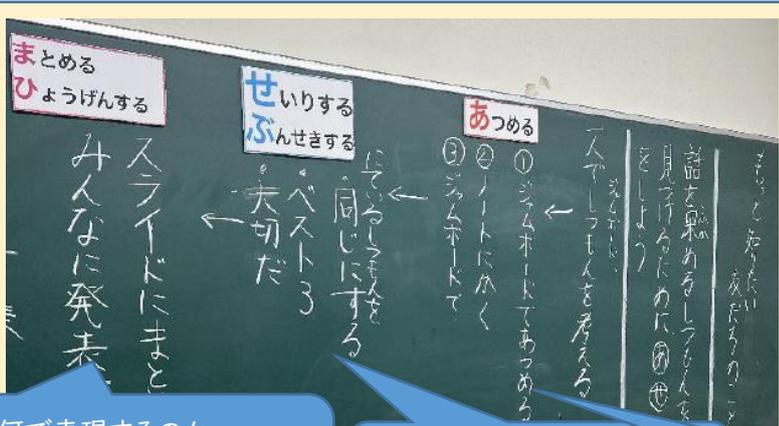
「教科の特質に応じた」「効果的な活用」を考えるのはこういった日常化の先・・・

仙台市の最新版目標リスト⇒本年度はカリマナの検証へ

学習領域	レベル1(基礎的学習)	レベル2(発展的学習)	レベル3(中級学習)
国語	読者の立場から、文章の構成や表現の工夫を捉え、内容を理解する。	文章の構成や表現の工夫を捉え、内容を理解し、自分の言葉で表現する。	文章の構成や表現の工夫を捉え、内容を理解し、自分の言葉で表現し、他者に伝える。
算数	数や図形、図表の読み取り、計算の仕方、単位換算の仕方など、基礎的な知識・技能を身に付ける。	数や図形、図表の読み取り、計算の仕方、単位換算の仕方など、基礎的な知識・技能を身に付け、応用する。	数や図形、図表の読み取り、計算の仕方、単位換算の仕方など、基礎的な知識・技能を身に付け、応用し、他者に伝える。
理科	身の回りや身近な自然の現象について、観察や実験を行い、その仕組みや原因を調べ、説明する。	身の回りや身近な自然の現象について、観察や実験を行い、その仕組みや原因を調べ、説明し、他者に伝える。	身の回りや身近な自然の現象について、観察や実験を行い、その仕組みや原因を調べ、説明し、他者に伝える。また、他者の説明を聞き、理解する。
社会	身近な社会の仕組みやルール、役割について、理解し、説明する。	身近な社会の仕組みやルール、役割について、理解し、説明し、他者に伝える。	身近な社会の仕組みやルール、役割について、理解し、説明し、他者に伝える。また、他者の説明を聞き、理解する。
総合	身の回りや身近な自然の現象について、観察や実験を行い、その仕組みや原因を調べ、説明する。	身の回りや身近な自然の現象について、観察や実験を行い、その仕組みや原因を調べ、説明し、他者に伝える。	身の回りや身近な自然の現象について、観察や実験を行い、その仕組みや原因を調べ、説明し、他者に伝える。また、他者の説明を聞き、理解する。

鳥取県のICT活用方針

山形県のICT活用ガイドライン



樋口先生の授業例
国語科「もっと知りたい友だちのこと」

【あ・せ・ひで単元、一単位時間を構成する】
① あ・せ・ひで情報を集める (あ)
② 集めた情報を整理する (せ)
③ 整理した情報を表現する (ひ)

・何で表現するのか
・どのように表現をするのか
・どのように発表するのか

・どのように整理をするのか
・どのように分析をするのか

・ジャムボードで集める ・ノートに書く
・ホワイトボードに書く ・黒板に書く など

最後はグループごとに協議を行い、「どのような場面で ICT を活用できるか」について話し合いました。なお、「未来の教室 南会津」のClassroomにお二人の先生の講演動画と資料をアップしています。校内研修などでぜひご活用ください。